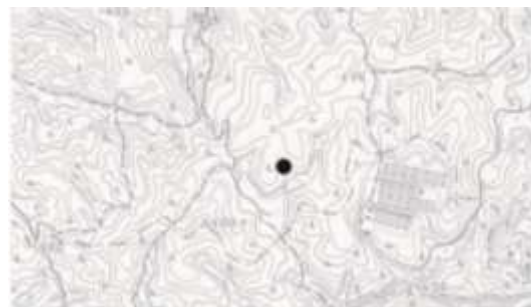


オンボB遺跡

所在地 豊田市下山田代町オンボ地内
(北緯 35 度 1 分 9 秒
東経 137 度 18 分 36 秒)

調査理由 豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成
事業



調査地点 (国土地理院 1/2.5 万「東大沼」)

調査期間 平成 26 年 7 月～平成 27 年 1 月

調査面積 1,150 m²

担当者 鵜飼雅弘・三輪みなみ

調査の経過 豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成事業に伴う事前調査として、愛知県企業庁より委託を受けて調査を実施した。

立地と環境 オンボB遺跡は、豊田市西部の下山田代町に所在する。調査区は上下 2 段で上段部は緩やかな斜面、下段部はほぼ平坦な地形である。標高は 449～457m、調査面積は 1,150 m²である。現在は主に杉が植林されている。近隣にはオンボ A 遺跡、オンボ C 遺跡 (古代、中世) がある。

調査の概要 主な遺構の時期は中世である。遺物は縄文時代・弥生時代・古代・中世といった幅広い時期で出土している。

縄文時代・弥生時代の遺構は検出していない。遺物は、石器や弥生土器が出土した。特に弥生土器は上段部からの出土が多い。

古代の遺構は、遺物が少ないため特定できていない。遺物は灰釉陶器が出土した。中世遺物は多量に出土するが、古代の遺物は極めて少ない傾向にある。

中世の遺構が最も多く出土した。上段部は遺構の密度が薄く、斜面の傾斜が急になる辺りから下段部にかけて急激に遺構の密度が高くなる傾向がある。上段部 0022SP では、ピットとほぼ同大の山茶碗が口縁部を上にした状態で出土した。完形であったことも考慮すると、意図的に埋納された可能性がある。

斜面部からは、0013SD とこれに伴うピット群、0008SD、0009SD などの溝を検出した。これらの用途は、雨水対策などが考えられる。溝の下方で複数のピットや、山側斜面を削り平坦面を造った 0055SX、0056SX を検出した。0055SX、0056SX では柱列を確認できず、上屋構造の有無は不明である。竪穴建物の 0055SX 内では炉を検出し、0056SX 内では炭化物が集中することを確認したことから、内部で火を用いる作業をしていたことがうかがわれる。

下段部では、風化花崗岩ブロックを多く含む盛土の上下で遺構面を確認し、2 面調査を行った。ただし、この盛土は下段部の 0230SX の東側から 0235SK の西側へかけて広がるものであり、この周辺に広がる遺構群の時期を厳密に区別することはできなかった。遺構は、竪穴建物、ピット、土坑、炉、溝などを検出した。このうち、より古い段階である第 2 検出面の遺構は、竪穴建物(0228SX、0230SX)、ピット、土坑、炉などである。0230SX、0229SL、0228SX はこの順番で切り合い関係を確認した。0230SX 内では、焼土や被熱痕、炭化物の付着した花崗岩の板石などを検出したことから、石組みの炉・

カマドがあったと推定される。ただし、被熱痕は遺構の南端に部分的に残るのみで、板石も原位置を保っていない。ピットに関しては、風化花崗岩ブロックを多く含む盛土の下層で検出したものは、埋土が盛土に近い。このため、遺構が徐々に埋まったのではなく、盛土を行って造成する際に一気に埋まった可能性がある。また、調査区東側では用途不明の大型の土坑が複数検出され、中には滞水層にまで達するものもある。

これに対して第1検出面では、ピットと炉を多く検出した。遺物は山茶碗、青磁、片口鉢や水注などの陶器、鍋・甕・釜などの土師質土器などが出土した。器以外では遺構内外から陶丸や、土製品、石製品、鉄製品、鉄滓が出土している。遺物の時期は2面共におおそ中世に収まり、あまり長い期間を置かず人々が活動を行っていたことが予想される。細かな時期差は今後検討の必要がある。

時期不明の遺構は炭焼窯である。オンボB遺跡では伏焼きと思われる円形の炭化物や被熱痕を伴う遺構を検出した。遺物が出土していないことから時期の特定は困難だが、中世より新しい層で検出しており、近世あるいは近代頃の遺構と考えられる。

ま と め オンボB遺跡では縄文時代、弥生時代、古代、中世の遺構・遺物を検出した。しかし、遺物を伴う遺構は、中世のもののみである。上段部では遺構の密度が薄く、斜面部より下で遺構の密度が高くなることが分かった。特に、下段部では斜面の崩落を利用したのか、あるいは人為的に削平したかは不明だが、花崗岩ブロックを多く含む盛土が確認された。この上下で遺構を検出したことから、少なくとも2時期にわたって人々が活動を行っていたことは確かである。(三輪みなみ)



図1 調査区図 (1:1000)



図2 遺構配置図（下段部は第1検出面）（1：400）



図3 下段部第2検出面の遺構配置図（1：200）



調査区全景（おおよそ上が東）



0013SD（東から）



0022SP（南から）



弥生土器出土状況（南西から）



下段部第1検出面（北東から）



0109SL 断面（南東から）



下段部第2検出面（北東から）



鉄滓など遺物出土状況（南東から）